

椎名 健先生のご退職にあたって

人間科学部心理学科長 秋山美栄子

椎名 健教授が、平成23（2011）年度をもって定年退職されます。

実は、この記は藤森 進先生が書くことになっていました。椎名先生赴任のきっかけを作った当時の学部長であり、先生を本学部へお迎えすることを心より願っていたお一人でしたが、現在は病床にある藤森先生に代わり、代筆させていただくことをまずお断りさせていただきます。

椎名先生は、平成19（2007）年10月に人間科学部に赴任され、平成20（2008）年4月の心理学科創設においては多大なるご尽力を賜り、加えて心理学科スタッフの心の支えとしても大きな存在感を発揮してくださいました。

先生は、文教大学に赴任される以前にも輝かしい研究・教育業績をお持ちでいらっしゃいます。千葉大学文理学部をご卒業後、東京教育大学大学院実験心理学専攻の修士課程、博士課程へと進まれ、ペンシルバニア州立大学大学院で心理学を専攻されました。その後も、ドイツのコンスタンツ大学で心理学科の助手をお勤めになるなど、国際的なご活躍も豊富です。帰国後も、鳥取大学、図書館情報大学、筑波大学教授を歴任されました。

そして筑波大学ご退官後に、新設の心理学科・心理学コースの中心人物として、ぜひお力添えをいただきたいという我々の強い願いを聞き入れて、本学へいらしてくださいました。

研究者としての先生は、知覚心理学の第一人者で、特に感性心理学においては大変なご活躍をなさっていらっしゃいます。中でも錯視（目の錯覚）の研究に関しては著名で、啓発書として「錯覚の心理学」を著され、日本基礎心理学会では錯覚コンテストの審査員を務めるなど、錯視の楽しさ、興味深さを多くの方に教示してくださいました。

また、知覚・感性の心理学分野のみならず、実験心理学、デザイン心理学など、心理学全般において造詣が深く、デザイン心理学では、コミュニケーションの道具としてデザインを捉え、絵図、ことば、数、などの認知心理学的な要因が、見やすさ、わかりやすさ、快適さに与える影響を研究するなど、デザインを科学的、心理学的に分析なさいました。そして、人生をデザインする心理学についても深く考察されています。

本学の教育においては、その温かいお人柄で、学生に対して、難しい理論についてもわかりやすく、興味を引く事例や機材を巧みに交え、豊かにご教授されました。特に科学としての「心理学」におけるこころの不思議について、さまざまな切り口からわかりやすくご講義され、学生の評判を呼んでいます。心理学研究法の授業中に実験として散歩を取り入れるなど、その教授方法は大変ユニークでもあります。4年半という短い期間ではありましたが、多くの学生が椎名ゼミを希望し、学ぶ楽しさを思い出に巢立

ちました。

また、ハンディキャップを持つ学生への心理学実験にもお力を注いでくださいました。適切な実験課題の選択、理解を促進するための教材の作成、そして、学生が実験実習の困難さに立ち向かう際に、それを克服できるようなきめ細やかな指導を目前で展開していただき、学生一人一人を尊重し、大切に育てるためのプロセスを示してくださいました。このような先生の教育への情熱や真摯な姿勢は、教員の内省を深める役割を果たすと同時に教員の目標になりました。

さらには、12号館2階に錯視に関するさまざまな図形、絵画、珍しい機材などを展示してくださいました。豊富なしかも斬新なアイデアをすぐ実現する実行力やセンスのよさにも感動するばかりです。この展示は、オープンキャンパスなどで大学を訪れた高校生からも人気が高く、本学学生のみならず若者たちの学習意欲を育む上で、すばらしい成果を上げています。

校内行政では、越谷保健センター主任、生涯学習センター主任などを歴任され、独創的な創意工夫で、新風を吹き込んでいただいたことが印象的です。生涯学習センターでは、小学生の体験講座や市民フォーラムでご講義され、活躍されました。

また、教授会や心理学科会議などにおける椎名先生のさまざまなご経験を基にされたご発言は、学部や学科のあり方を決定づける重要なものであるばかりでなく、心に深い印象を残し、胸が熱くなり身の引き締まる思いで襟を正したこともたびたびでした。「研究者は、大学教授はかくあるべし！」という理想像を見せていただいた気がします。許されることならもう少し傍に居させていただき、教えを請いたいと願っています。

ご退職後もこの先何を目指してどのような方向性を模索すればよいのかという困難さを抱えている後進のために、どうか変わらぬ愛情をもって叱責いただければ幸いです。

短い間ではございましたが、人間科学部と文教大学に対するご厚情、誠にありがとうございました。今後も先生らしく、末永くご研究にご趣味に大にご活躍されますことを心よりお祈り申し上げ、心理学科・人間科学部としての感謝の印と致します。ありがとうございました。